

様式第4のハ (第4条、第5条関係)

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		(1)			
貯蔵する危険物の概要 (2)		引火点	℃	貯蔵温度	℃
基礎、据付方法の概要		(3)			
タンクの構造、設備	形状	(4)		常圧・加圧 ((5) kPa)	
	寸法	(6)		容量	(7)
	材質、板厚	(8)			
	通気管 (9)	種別	数	内径又は作動圧	
				mm kPa	
	安全装置 (10)	種別	数	作動圧	
				kPa	
液量表示装置	(11)	引火防止装置	(12) 有・無		
不活性気体の封入設備	(13)	タンク保温材の概要	(14)		
注入口の位置	(15)	注入口付近の接地電極	(16) 有・無		
防油堤 (17)	構造		容量	排水設備	
ポンプ設備の概要		(18)			
避雷設備		(19)			
配管		(20)			
消火設備		(21)	タンクの加熱設備	(22)	
工事請負者住所氏名		(23)			
		電話			

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領

項 目	記 入 内 容
(1) 事業の概要	事業の概要は、貯蔵所が設置されている事業所の事業内容、貯蔵目的等を記入します。
(2) 貯蔵する危険物の概要	引火点欄は、タンクに貯蔵する危険物の引火点、貯蔵温度欄は、加熱設備等常温以外の状態で貯蔵する場合に記入します。
(3) 基礎、据付方法の概要	タンクを設置する位置の基礎施工方法及びタンク据付方法を 記入します。
(4) 形状	形状種別により縦置円筒型、横置円筒型、角型、楕円型等を記入します。
(5) 常圧・加圧の別	タンク内の危険物貯蔵方法を○で囲み、加圧の場合は圧力を記入します。
(6) 寸法	寸法は、次の項目を記入してください。 ①縦置円筒型は、内径及び側板の底部からトップアングルまでの高さ ②横置円筒型は、内径、胴長、鏡出及び全長 ③角型は、縦、横、高さ ④楕円形は、長さ、幅、高さ、最大幅等特徴的な部分の長さ
(7) 容量	容量は空間容積を除いた実容量を記入します。 ※危政令第5条第2項参照
(8) 材質、板厚	材質、板厚は、タンクそれぞれの部分の材質及び板厚を記入します。
(9) 通気管	通気管は、タンクに設置される通気管の種別、設置数、内径を記入します。内径又は作動圧の欄は無弁通気管にあっては内径、大気弁付通気管にあっては内径及び作動圧をそれぞれ記入します。
(10) 安全装置	圧力タンクの場合に限り、装置の種別、設置数及び作動圧を記入します。
(11) 液量表示装置	タンクに設置された液面計の型式等を記入します。
(12) 引火防止装置	有・無のいずれかを○で囲むよう記入します。
(13) 不活性気体の封入設備	設備が設けられる場合に、その概要を記入してください。 (例) 専用配管を接合し、タンク内圧が○Pa 以下となった場合に窒素ガス封入を行う。
(14) タンク保温材の概要	タンク外面に保温材がある場合に、その種類及び施工方法等を記入します。(例) ウレタンフォーム吹き付け
(15) 入口の位置	注入口の設置位置を具体的に記入します。
(16) 注入口付近の接地電極	有・無のいずれかを○で囲むように記入します。
(17) 防油堤	構造、容量及び排水設備等を記入します。
(18) ポンプ設備の概要	ポンプ設備は、タンク受け払いを行っているポンプの種類、最大吐出圧力、原動機の種類、設置数及び防爆構造の種別や記号を記入します。
(19) 避雷設備	避雷設備の概要を記入します。 (例) J I S A 4 2 0 1 による突針3本
(20) 配管	材質、口径、外面保護等を記入します。
(21) 消火設備	危政令別表第5に規定する区分、設備名、設置数等を記入します。 (例) 第4種消火設備1本、第5種消火器設備2本
(22) タンクの加熱設備	加熱設備の概要、加熱媒体、温度等が分かるように記入します。 (例) ボイラーによる蒸気を配管により、20号タンクのジャケット

	に接続し、70度に加熱する。
(23) 工事請負者住所氏名	工事請負者の住所、氏名（法人は主たる事業所の所在地、法人名、工事責任者名）及び連絡先の電話番号を記入します。

※製造所又は一般取扱所の20号タンクの場合は、(2)から(17)までについて記入してください。該当がない項目は、斜線又は「なし」等を記入し、空欄が無いようにしてください。